

## 障がい者福祉計画策定に向けた意識調査 調査結果の概要 (障がい当事者以外向け)

### 1. 実施状況

実施期間: 令和元年 6 月 17 日～7 月 5 日

調査方法: 郵送調査

発送数 : 1,000 通

回収数 : 408 通

回収率 : 40.8%

### 2. 結果概要

#### 回答者の属性

#### 問 1 回答者の性別

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	男性	165	40.4
2	女性	242	59.3
	無回答	1	0.2
	全体	408	100.0

#### 問 2 回答者の年齢層

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	10歳代	22	5.4
2	20歳代	17	4.2
3	30歳代	33	8.1
4	40歳代	71	17.4
5	50歳代	77	18.9
6	60歳代	81	19.9
7	70歳代以上	106	26.0
	無回答	1	0.2
	全体	408	100.0

「男性」と回答した人は 40.4%、「女性」と回答した人は 59.3%となっています。住民基本台帳による年齢別人口(令和元年 6 月 1 日時点)では、男性が 50.1%、女性が 49.8%となっており、それに比べると女性が多くなっています。

「70 歳以上」が 26.0%で最も多くなっています。住民基本台帳による年齢別人口(令和元年 6 月 1 日時点)における 15 歳以上の人口に占める割合と比較すると、「60 歳代」と「70 歳以上」の回答の割合が多く、「20 歳代」と「30 歳代」の回答の割合が少なくなっています。

## 障害者への実態や取り組みについて

問3 大和市内にはどのくらい障がいのある方が住んでいると思いますか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	600人に1人くらい	47	11.5
2	300人に1人くらい	115	28.2
3	150人に1人くらい	160	39.2
4	30人に1人くらい	78	19.1
	無回答	8	2.0
	全体	408	100.0

令和元年4月時点で、大和市の障がい者数(※手帳所持者数)は9,346人、総人口は236,078人であることから、25.3人に1人が障がいのある方となっています。しかし、「30人に1人くらい」と回答した方は全体の19.1%にとどまっており、39.2%の方が「150人に1人くらい」と回答しています。

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	600人に1人くらい	12	15.2
2	300人に1人くらい	20	25.3
3	150人に1人くらい	25	31.6
4	30人に1人くらい	20	25.3
	無回答	2	2.5
	全体	79	100.0

H26年度調査と比較すると、最も近い回答が「30人に1人くらい」という点は変わっていない一方で、4と回答した割合は低下しています。

この結果から、市民の多くは障がいがある人はもっと少ないと感じていると言えます。

問4 法律において「障害」とは、身体障がい、知的障がい、精神障がい(発達障がい含む)、治療法が確立されていない難病のことを言いますが、知っていましたか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	214	52.5
2	知らなかった	192	47.1
	無回答	2	0.5
	全体	408	100.0

「知っていた」が52.5%となっており、半数を超えています。

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	34	43.0
2	知らなかった	43	54.4
	無回答	2	2.5
	全体	79	100.0

H26年度調査では「知っていた」割合が半数を切っていたことから、「障害」の認知度は、5年前に比べて浸透していると考えられます。

問5 あなたは次のような障がい者向けの取組などについて知っていますか。

- ①法律や条約(障害者基本法、障害者総合支援法、障害者権利条約など)
- ②計画(大和市障がい者福祉計画、障がい福祉計画など)
- ③施設・サービスなど(「なんでも・そうだん・やまと」、大和市障害者自立支援センター、松風園など)
- ④会議(大和市障害者自立支援協議会など)

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	設問①		設問②		設問③		設問④	
		回答者	%	回答者	%	回答者	%	回答者	%
1	内容まで知っている	23	5.6	10	2.5	33	8.1	7	1.7
2	名称だけ知っている	184	45.1	142	34.8	228	55.9	114	27.9
3	知らない	199	48.8	252	61.8	143	35.0	282	69.1
	無回答	2	0.5	4	1.0	4	1.0	5	1.2
	全体	408	100.0	408	100.0	408	100.0	408	100.0

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	設問①		設問②		設問③		設問④	
		回答者	%	回答者	%	回答者	%	回答者	%
1	内容まで知っている	2	2.5	3	3.8	5	6.3	0	0.0
2	名称だけ知っている	38	48.1	20	25.3	36	45.6	14	17.7
3	知らない	38	48.1	56	70.9	38	48.1	65	82.3
	無回答	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	79	100.0	79	100.0	79	100.0	79	100.0

H26 年度調査と比較して、いずれも「内容まで知っている」「名称だけ知っている」の合計割合は増加していますが、①②④は「知らない」が最も割合が多く、認知度は低い状況です。

## 障がい福祉の考え方や共生(ともに生きる)について

問 6 あなたは障がい者が必要なサービスを利用しながら、地域で自立して生活することについてどう思いますか。

⇒問 6-1 (「すぐには難しい」or「無理だと思う」と答えた方)なぜそう思いますか。(複数回答)

## &lt;R1 集計&gt;

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	自立した生活をするべきだと思う	119	29.2
2	自立した生活はすぐには難しいと思う	209	51.2
3	自立した生活をするのは無理だと思う	27	6.6
4	わからない	38	9.3
5	その他	13	3.2
	無回答	2	0.5
	全体	408	100.0



No.	カテゴリー名	回答者	%
1	障がい者にとって暮らしやすい社会になっていない	182	77.1
2	福祉サービスが不足している	118	50.0
3	その他	19	8.1
	無回答	2	0.8
	非該当	172	
	全体	236	100.0

累計	(n)	累計	(%)
	321		136.0

## &lt;参考:H26 集計&gt;

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	自立した生活をするべきだと思う	16	20.3
2	自立した生活はすぐには難しいと思う	43	54.4
3	自立した生活をするのは無理だと思う	5	6.3
4	わからない	10	12.7
5	その他	4	5.1
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0



No.	カテゴリー名	回答者	%
1	障がい者にとって暮らしやすい社会になっていない	42	87.5
2	福祉サービスが不足している	20	41.7
3	その他	4	8.3
	無回答	0	0.0
	非該当	31	64.6
	全体	48	100.0

累計	(n)	累計	(%)
	66		137.5

「自立した生活はすぐには難しいと思う」が 51.2%で最も多く、次いで「自立した生活をするべきだと思う」が 29.2%で多くなっています。

H26 年度調査と比較すると、「地域生活をするべきだと思う」の割合が増加しており、地域で受け入れる意識がわずかながら浸透していると見ることができます。一方で、「障がい者が暮らしやすい社会になっていない」ため、地域生活は難しいと考える市民の割合は依然として高くなっています。

問7 次のような場面であなはどのように感じますか。率直な気持ちをお答えください。

- ①自分の子どものクラスに障がいのある児童が入った
- ②自分の職場で障がい者と一緒に働くことになった
- ③地域の活動に障がい者が参加することになった
- ④家の近くに障がい者のための施設が建設されることになった
- ⑤車いすの障がい者から駅の階段等の登り降りでの介助を求められた
- ⑥自分のアパート・マンションやレストランに盲導犬が出入りする

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	設問①		設問②		設問③		設問④		設問⑤		設問⑥	
		回答者	%										
1	よいことだと思う	217	53.2	247	60.5	328	80.4	215	52.7	317	77.7	313	76.7
2	どちらともいえない	167	40.9	132	32.4	64	15.7	156	38.2	65	15.9	72	17.6
3	あまり望まない	17	4.2	20	4.9	8	2.0	26	6.4	12	2.9	14	3.4
	無回答	7	1.7	9	2.2	8	2.0	11	2.7	14	3.4	9	2.2
	全体	408	100.0	408	100.0	408	100.0	408	100.0	408	100.0	408	100.0

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	設問①		設問②		設問③		設問④		設問⑤		設問⑥	
		回答者	%										
1	よいことだと思う	31	39.2	35	44.3	57	72.2	39	49.4	55	69.6	52	65.8
2	どちらともいえない	37	46.8	31	39.2	17	21.5	32	40.5	15	19.0	19	24.1
3	あまり望まない	6	7.6	7	8.9	1	1.3	3	3.8	5	6.3	3	3.8
	無回答	5	6.3	6	7.6	4	5.1	5	6.3	4	5.1	5	6.3
	全体	79	100.0	79	100.0	79	100.0	79	100.0	79	100.0	79	100.0

それぞれの項目の結果を比較すると、「1 自分の子どものクラスに障がいのある児童が入った」、「2 自分の職場で障がい者と一緒に働くことになった」、「4 家の近くに障がい者のための施設が建設されることになった」では「どちらともいえない」が3～4割程度となっており、生活のより身近な場面では「どちらともいえない」が多くなる傾向がみられます。

H26 年度調査と比較すると、設問①でも「よいことだと思う」が最も多くの割合となり、全項目で「よいことだと思う」の割合が50%を越えています。

問 8 あなたは、障がいがある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	あると思う	107	26.2
2	少しはあると思う	196	48.0
3	ないと思う	81	19.9
4	わからない	22	5.4
	無回答	2	0.5
	全体	408	100.0

「少しはあると思う」が 48.0%、「あると思う」が 26.2%となっており、8 割以上の人は何らかの障がいを理由とする差別や偏見があると回答しています。「ないと思う」は 19.9%となっています。

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	あると思う	20	25.3
2	少しはあると思う	31	39.2
3	ないと思う	23	29.1
4	わからない	4	5.1
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

H26 年度調査と比較すると、「少しあると思う」の割合は増加しています。

### 障がいがある人との交流等について

問 9 あなたは街で障がいがある人を見かけたことがありますか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	ある	400	98.0
2	ない	5	1.2
	無回答	3	0.7
	全体	408	100.0

98%の方が「ある」と回答しています。

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	ある	76	96.2
2	ない	2	2.5
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

問 10 街で見かけた障がいがある人が手助けを必要としていたら、どのような対応をしますか。

⇒問 10-1 (「どう対応したらよいかわからない」or「無視する」と答えた方)回答の理由はどんなことですか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	進んで声をかける	105	25.7
2	頼まれたら手伝う	247	60.5
3	どう対応したらよいかわからない	51	12.5
4	無視する	3	0.7
	無回答	2	0.5
	全体	408	100.0

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	相手がどのように対応するかわからないので不安	19	35.2
2	おせっかいのような気がする	4	7.4
3	相手や周囲に気恥ずかしさを感じるから	3	5.6
4	きちんと対応できそうもないから	18	33.3
5	手伝うことは障がい者の(自立の)ためにならないから	0	0.0
6	関わりたくないから	1	1.9
7	専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから	1	1.9
	無回答	8	14.8
	非該当	354	
	全体	54	100.0

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	進んで声をかける	20	25.3
2	頼まれたら手伝う	49	62.0
3	どう対応したらよいかわからない	8	10.1
4	無視する	1	1.3
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	相手がどのように対応するかわからないので不安	3	33.3
2	おせっかいのような気がする	0	0.0
3	相手や周囲に気恥ずかしさを感じるから	1	11.1
4	きちんと対応できそうもないから	3	33.3
5	手伝うことは障がい者の(自立の)ためにならないから	0	0.0
6	関わりたくないから	1	11.1
7	専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから	1	11.1
	無回答	0	0.0
	非該当	70	
	全体	79	100.0

「どう対応したらよいかわからない」と「無視する」と回答した人に理由を聞いたところ、「相手がどのように対応するかわからないので不安」(35.2%)と「きちんと対応できそうもないから」(33.3%)が3割を超えて多くなっています。

H26 年度調査と比較しても、この割合は大きな変化がありませんでした。

## 障がいがある人に対する地域社会について

問 11 障がい者に対して、今の地域社会の中で、差別や偏見または配慮の無さを感じる場所がありますか。  
(3 つまで)

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	仕事や収入	196	48.0
2	道路・建物の構造や設備	214	52.5
3	公共交通機関の利用	89	21.8
4	公共施設の利用	43	10.5
5	教育の機会	61	15.0
6	隣近所のつきあい	55	13.5
7	お店などの対応態度	58	14.2
8	福祉関係従事者の対応態度	22	5.4
9	サークル・スポーツへの参加	21	5.1
10	地域の行事や活動	19	4.7
11	災害時等を含む情報の提供	45	11.0
12	その他	13	3.2
13	差別や偏見、配慮の無さは感じない	21	5.1
	無回答	25	6.1
	全体	408	100.0

累計	(n)	累計	(%)
	882		216.2

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	仕事や収入	35	44.3
2	道路・建物の構造や設備	43	54.4
3	公共交通機関の利用	21	26.6
4	公共施設の利用	10	12.7
5	教育の機会	15	19.0
6	隣近所のつきあい	15	19.0
7	お店などの対応態度	10	12.7
8	福祉関係従事者の対応態度	5	6.3
9	サークル・スポーツへの参加	4	5.1
10	地域の行事や活動	7	8.9
11	災害時等を含む情報の提供	12	15.2
12	その他	1	1.3
13	差別や偏見、配慮の無さは感じない	2	2.5
	無回答	6	7.6
	全体	79	100.0

累計	(n)	累計	(%)
	186		235.4

「道路・建物の構造や設備」(52.5%)と「仕事や収入」(48.0%)が5割前後で多くなっており、次いで「公共交通機関の利用」が21.8%となっています。年齢別にみると、おおむね年齢が上がるにつれて「道路・建物の構造や設備」の回答が多くなっています。

H26 年度調査と比較しても、上位3つの割合は大きな変化がありませんでした。

## 障がいがある人への支援について

問 12 あなたはどのような支援に参加できると思うか。(複数回答)

&lt;R1 集計&gt;

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	障がい・障がい者本人や家族の話し相手	133	32.6
2	外出時の介助	83	20.3
3	レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力	96	23.5
4	点字や朗読サービス	40	9.8
5	入浴や食事の介助	15	3.7
6	経済的な支援	22	5.4
7	あいサポート運動への参加	134	32.8
8	その他	27	6.6
9	いずれも関わることはできない	64	15.7
	無回答	13	3.2
	全体	408	100.0

累計	(n)	累計	(%)
	627		153.7

&lt;参考:H26 集計&gt;

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	障がい・障がい者本人や家族の話し相手	28	35.4
2	外出時の介助	25	31.6
3	レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力	32	40.5
4	点字や朗読サービス	10	12.7
5	入浴や食事の介助	8	10.1
6	経済的な支援	1	1.3
8	その他	2	2.5
9	いずれも関わることはできない	12	15.2
	無回答	3	3.8
	全体	79	100.0

累計	(n)	累計	(%)
	121		153.2

「あいサポート運動への参加」(32.8%)と「障がい・障がい者本人や家族の話し相手」(32.6%)が3割を超えて多くており、「レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力」(23.5%)と「外出時の介助」(20.3%)が2割台で続いています。

H31年2月に開始した「あいサポート運動への参加」を選択肢に追加したため、H26年度調査と一部内容は異なりますが、「障がい・障がい者本人や家族の話し相手」「レクリエーション活動やスポーツ活動等の協力」「外出時の介助」の選択肢は、引き続き割合で上位となっています。

問 13 もし、あなたが将来、加齢や障がいにより、日常生活の介助や援助が必要となった場合、どのように暮らしたいですか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	家族の助けを軸に、自宅での生活を続けたい	69	16.9
2	各種サービスを利用して、自宅での生活を続けたい	202	49.5
3	グループホームなど、自立を前提とする住まいで暮らしたい	55	13.5
4	高齢者・障がい者のための施設に入所したい	50	12.3
5	病院に入院したい	8	2.0
6	その他	13	3.2
	無回答	11	2.7
	全体	408	100.0

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	家族の助けを軸に、自宅での生活を続けたい	12	15.2
2	各種サービスを利用して、自宅での生活を続けたい	43	54.4
3	グループホームなど、自立を前提とする住まいで暮らしたい	10	12.7
4	高齢者・障がい者のための施設に入所したい	9	11.4
5	病院に入院したい	4	5.1
6	その他	0	0.0
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

「各種サービスを利用して、自宅での生活を続けたい」が 49.5%で最も多くなっています。「家族の助けを軸に、自宅での生活を続けたい」(16.9%)と合わせると、全体の6割以上の方に『自宅での生活を続けたい』という意向があることがうかがえます。H26 年度調査と比較しても、この傾向は変わっていません。

### 権利擁護について

問 14 平成 24 年 10 月に施行された「障害者虐待防止法」を知っていますか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	57	14.0
2	聞いたことがある	174	42.6
3	知らなかった	174	42.6
	無回答	3	0.7
	全体	408	100.0

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	7	8.9
2	聞いたことがある	29	36.7
3	知らなかった	42	53.2
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

「聞いたことがある」と「知らなかった」が 42.6%、「知っていた」が 14.0%となっています。年齢別にみると、「知らなかった」はおおむね年代が上がるにつれて減少する傾向がみられます

H26 年度調査と比較すると、「知っていた」方の割合が増加しています。

問 15 「虐待防止法」では、家庭や施設、職場で虐待を受けたり、虐待をされている疑いに気づいた人は、「大和市虐待防止センター」に通報することが義務付けられています。あなたはこのことを知っていましたか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	43	10.5
2	聞いたことがある	84	20.6
3	知らなかった	274	67.2
	無回答	7	1.7
	全体	408	100.0

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	6	7.6
2	聞いたことがある	18	22.8
3	知らなかった	54	68.4
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

「聞いたことがある」が 20.6%、「知っていた」が 10.5%となっています。「知らなかった」(67.2%)が 7 割近くで特に多くなっています。H26 年度調査と比較しても、割合については大きな変化はありませんでした。

問 16 あなたは、自宅の近所や職場等で障がいのある人が虐待を受けたり、虐待をされている疑いに気づいたとき、通報をしますか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	少しでも疑いがあれば通報する	61	15.0
2	周囲の人等に相談してから通報する	248	60.8
3	虐待かどうか判断が難しいので通報しない	33	8.1
4	関わりたくないので通報しない	5	1.2
5	考えたことがないのでわからない	53	13.0
6	その他	2	0.5
	無回答	6	1.5
	全体	408	100.0

「周囲の人等に相談してから通報する」が 60.8%で最も多くなっています。「少しでも疑いがあれば通報する」と「周囲の人等に相談してから通報する」を合わせた『通報する』は 75.8%となっています。

<参考:H26 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	少しでも疑いがあれば通報する	16	20.3
2	周囲の人等に相談してから通報する	44	55.7
3	虐待かどうか判断が難しいので通報しない	6	7.6
4	関わりたくないので通報しない	4	5.1
5	考えたことがないのでわからない	7	8.9
6	その他	1	1.3
	無回答	1	1.3
	全体	79	100.0

H26 年度調査と比較すると、割合については大きな変化はありませんでした。

問 17 障がい者を理由とする差別を解消するために、平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行されました。あなたは「障害者差別解消法」を知っていましたか。

<R1 集計>

No.	カテゴリー名	回答者	%
1	知っていた	16	3.9
2	聞いたことがある	86	21.1
3	知らなかった	302	74.0
	無回答	4	1.0
	全体	408	100.0

「聞いたことがある」が 21.1%、「知っていた」が 3.9%となっています。「知らなかった」が 74.0%で、全体の約 4 分の 3 を占めています。